



南房総のハズシ

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

令和5年6月に閣議決定された『第4期教育振興基本計画』では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るとしています。

I 地域と学校の連携・協働の必要性

・教育基本法の第13条では、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」としています。

地域における
教育力の低下

- 感染症の拡大や国際情勢の不安定化などに象徴される**将来の予測が困難な時代の到来**
- 少子化・人口減少や高齢化、DXの進展などの**社会の変化**
- 都市化や過疎化による**地域のつながりの希薄化**

学校を取り巻く問題の
複雑化・困難化

- 子供たちが抱える**困難の多様化・複雑化**
- 学校における**働き方改革**のさらなる推進
- **情報化**の加速度的な進展に関する対応

学習指導要領の理念
「社会に開かれた教育課程」

- ① 教育課程を介して**目標を学校と社会が共有**
- ② 子供たちの育成すべき資質・能力を明確化
- ③ **地域の人的・物的資源の活用**、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育を展開



II コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の効果

コミュニティ・スクールのメリット・効果

- 子供・・・本物に触れる体験と学び（**学習活動の充実**）
 - ・教育内容が充実。リアルな学びの広がり。
 - ・地域の方から学び、地域に出て活動することが増える。
 - ・「社会に開かれた教育課程」の実現につながる。
- 学校・・・地域とともにある学校（**学校運営・働き方の充実**）
 - ・多様な立場の人が当事者となることで学校運営が充実。
 - ・学校運営のバックアップにつながる。
 - ・問題が起こった時、タイムリーに対処できる。
 - ・学校運営に継続性が高まる。
- 地域・・・学校という場を核に「まちづくり」（**地域の教育力の充実**）
 - ・いざ！というとき、頼りになる信頼関係ができる。
 - ・地域の企業・人・組織がつながる。

地域学校協働活動の効果

子供たちにとって (学びの充実)

- ・地域の方々の多様な知識や経験により、多様な体験の場が増え、子供たちの学習に対する興味関心が高まります。
- ・地域の大人たちとの交流により、コミュニケーション力や社会性が育ちます。
- ・周りの人への感謝の気持ちや、地域への愛着が深まります。

学校・教員にとって (学校運営・働き方の充実)

- ・家庭や地域との連携が一層深まり、開かれた学校づくりを進めることができます。
- ・学校の環境整備が進んだり、校内、通学路の安全性が高まります。
- ・地域の方々が手伝うことにより、教員にしかできない子供の指導等により多くの時間を充てられるようになります。

地域の方々にとって (地域の教育力の充実)

- ・身に付けている知識や経験を生かすことができ、地域に貢献しているという満足感が得られます。
- ・一緒に活動することにより、仲間が増え、生きがいづくりにつながります。
- ・学校内はもとより、学校外でも子供たちとあいさつや言葉を交わすようになり、元気がもらえます。

Ⅲ 「社会に開かれた教育課程」実現のための コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- ・地域の教育力の低下や、学校を取り巻く諸課題の複雑化や困難化が指摘される中、学校と地域が連携・協働していくことが、「社会に開かれた教育課程の実現」につながります。
- ・日本の子どもたちの総合的な学力は、世界トップレベルですが、日本財団が調査した「18歳意識調査」では、「自分で国や社会を変えられると思う」「自分の国に解決したい社会議題がある」「社会議題について、家族や友人と議論している」等の項目では、低い値を示しています。「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」「生きる力」「確かな学力」等を身に付けていくためにも「社会に開かれた教育課程の実現」が求められています。

